

## 北海道の糞虫

日本で最大の糞虫はダイコクコガネですが、それが今、激減しているそうです（8月1日付け道新）。

糞虫、これは「くそむし」といってはいけません。「ふんちゅう」といってください。

私たちが住むこの世界は、大動物から目に見えない微生物に至るまで、様々な生き物たちの連鎖によって維持されています。人間は、地球上では随分と大きな顔をしています。が、無数の生き物たちの力を借りなければ、快適な生活を営むことはできません。

例えば、ダイコクコガネがいなくなったとしたらどういう事になるのでしょうか？ それを考えるには、彼らの生活を知らねばなりません。

そこで、ダイコクコガネについて少し調べてみました。

彼ら、つまりダイコクコガネは大型の糞虫で、写真を見るとオスの頭部には立派な角があり、北海道はもとより口永良部島など広範囲に生息しています。成虫は10月頃まで生存し、春から夏にかけて最も良く活動するそうです。また、彼らは、牧場で飼育されている牛や馬の糞を餌として生活していますが、そうした環境が無い場合には、野生の狸や猪、鹿などの糞にも集まるといわれています。

このように、農家の皆さんが産業廃棄物としてその処理に頭を痛めている家畜の糞も、ダイコクコガネにとっては貴重な食料となっています。しかも、家畜の糞の分解は、ダイコクコガネが相当の部分を引き受けているといわれていますので、仮にダイコクコガネがいなくなったら、牧場から大量に排出される家畜の糞が分解されず、糞害を引き起こす可能性さえあるのです。

たかだか3センチメートル程しかないダイコクコガネですが、自然の営みやバランスには凄いものがあります。

このダイコクコガネが、冒頭述べたように激減しているというのです。その理由には、牛や馬を一年中放牧している牧場が少なくなり、糞が安定供給されなくなったこと。配合飼料の増加で、糞の成分が子育てに適さなくなったこと。更には、牛に投与される駆虫剤の影響などが考えられるようですが、ダイコクコガネにとっては生きづらい世の中になっているようです。

北海道では、エゾシカが急増し大きな問題になっていますが、ダイコクコガネにとっては、このエゾシカが命の綱という皮肉な状況です。そのエゾシカも、駆除されたらどうなるのか、ダイコクコガネの不安な生活はまだまだ続きそうです。

「コガネムシは金持ちだ、金蔵たてた倉たてた」という歌がありますが、ダイコクコガネにとってははた迷惑というところでしょう。実は、今回調べて分かったことですが、この歌のコガネムシはゴキブリのことだったらしいのです。正直驚きましたが、子ども達の夢を壊さないために、秘密にしておいてください。（塾頭 吉田 洋一）